

のぞいてみよう！ せんだいの歴史

伊達騒動編

伊達綱宗の隠居生活

仙台市博物館 学芸企画室 寺澤 慎吾

第2回

伊達騒動の発端は、仙台藩3代藩主伊達綱宗の隠居事件でした。今回は、五〇年以上の長きにわたった綱宗の隠居生活の一端を紹介します。

芸術ざんまいの日々

万治三年（一六六〇）七月、綱宗は藩主となって二年もたたないうちに幕府から隠居を命じられます。外出を禁じられ、基本的に江戸品川（東京都品川区）の仙台藩下屋敷敷地内で生活を送ることとなりました。

綱宗に関する古文書や記録類、現存する作品などからは、綱宗が能や絵画制作、染め物、作刀、蒔絵、詠歌といったさまざまな芸術活動に取り組んでいたことが分かります。また、4代藩主となった息子の綱村とは密に連絡をとり、伊達家の年中行事や鷹狩り、演能の様子など、細部にわたって報告を受け、綱宗も気に掛けていました。

能については、綱宗は二三歳の頃から習っていたといわれ、隠居中も自ら演じ、また、幕府から許可を得た上で、役者を屋敷に呼んでの演能も行われたようです。このほか、能面の作者や年代の鑑定を行った

り、自ら能面を彫つたりと、特に能への造詣の深さが窺えます。

専門絵師顔負けの絵画

綱宗が専門家顔負けの腕前を見せたのが絵画制作でした。仙台市博物館が所蔵する伊達家伝来のものだけでも綱宗作とされる絵画が一〇点以上確認できます。綱宗は、江戸前期を代表する幕府御用絵師・狩野探幽に手ほどきを受けたともいわれ、探幽の画風に倣った作品もあります。描いた主題も花鳥図や山水図のほか、人物図や仏画に類するものまで幅広く手掛けており、画面形式も掛け軸だけでなく、額や屏風などさまざまです。

なかでも「花鳥図屏風」（下図は一双のうち右隻）は力の入った作品で、金泥や銀泥、金箔を小さく切った切箔などを用いた華やかなものです。松の幹や枝が折れ曲がりながら左方へ勢いよく伸び、根元の岩や流水も力強い筆遣いで描かれています。その一方で、枝や岩場にとまる鳩、鴛鴦、鶴鴒などといった鳥はとても繊細に表されています。

また、綱宗が描いた作品は、子の綱村に贈られただけでなく、親戚の大名や公

家らにも贈られ、関連資料からは、絵が高い評価を受けて重宝されたことが分かっています。

正徳元年（一七一二）六月、綱宗は七二歳で没します。長期に及んだ隠居生活は不自由なことも多かったと思われませんが、さまざまな芸術に打ち込み、専門家に引けをとらない作品を残したのでした。



花鳥図屏風(6曲1双のうち右隻) 伊達綱宗筆 仙台市博物館蔵

仙台市史 全32巻

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介！
「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、
「年表・索引」があります。

発売中！ピックアップ紹介



特別編3 美術工芸

B5判/オールカラー/590ページ 6,285円(税込)
古代から現代に至る仙台の美術・工芸について、豊富な図版とともに紹介します。専門絵師に引けをとらない絵画を描いた、伊達綱宗の作品にも触れています。



既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索 ▶お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074 8:30-17:15 ※土・日・祝休日を除く

※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。